

只見町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

NO.	2	事業名	只見ユネスコエコパーク、ワークスポーツ体験交流事業	事業番号	A - 2
事業概要					
事業実施主体		只見町			
主な企画内容		亀岡スポーツパークでのスポーツ体験交流、只見グリーンワーケーションの推進			
主な事業の実施場所		只見町			
事業の実施期間		令和4年4月～令和8年3月			
風評の払拭に関する目標					
<p>・ニューススポーツ体験交流 令和4年度 只見町で行うニューススポーツを体験し楽しさと自然環境をPR 各年夏と冬2回実施 令和5年度～令和7年度 さらに周知を拡大させ、イベント実施方法をブラッシュアップしモニターツアーを実施することで只見町でのニューススポーツ交流体験の定着化を図る</p> <p>・グリーンワーケーション：ユネスコエコパークの自然環境の中でのワークとバケーション、ホビーとおいしい米と南郷トマト・地酒などの食を組み合わせたグリーンワーケーションを大都市圏の方に提供する 令和4年度 大都市圏企業へのアプローチを行い只見町での自然環境豊かな環境の中でのワーケーションを呼び込み企業レベルでの風評被害の払しょくを図る 令和5年度～令和7年度 さらに大都市圏企業へのアプローチを拡大し、より多くの企業へグリーンワーケーションを体験していただくようモニターツアー等現地案内を実施する</p>					
企画内容					
【実施体制】					
①実地主体：只見町					
②連携団体及び役割分担					
(1) 只見町地域創生課：町内各施設でのワーケーションの推進					
(2) 只見町教育委員会及び只見コミュニティクラブ：亀岡スポーツパーク等での交流イベント					
(3) 只見町インフォメーションセンター：イベント等の情報発信					
【現状・課題】					
<p><現状> 2011年の東日本大震災による原子力発電所の事故による影響が未だに残り、発災以前の誘客を取り戻せていない。 (平成22年度223, 184人、令和2年度98, 410人、令和3年度集計只見町観光商工課)</p> <p><課題> ・未だに日本国内や海外では風評被害の影響がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客交流人口の減少 ・出荷制限の続く産品が残っている 					
【今年度事業における具体的な取組内容】					
①ニューススポーツ等体験交流事業					
実施期間：令和4年夏季、令和5年冬期の2回実施					
実施体制：只見町地域創生課、只見町教育委員会、只見コミュニティクラブ					
<p>・自然環境の中でスポーツ体験交流の場を、健康を意識した主に都市部の若者世代の方へフェイスブック広告（イベント）、ライン広告（トークリスト・NEWS）などにより周知し呼び込む。</p> <p>・日本では類を見ない中山間・山間地域でのビーチバレーコート有する只見町の亀岡スポーツパークにて、これまでも実施してきたサッカー・ビーチバレー・雪上バレー・雪上フットサルに、将来オリンピック種目となる可能性があり、アメリカ発祥の新感覚スポーツであるラウンドネット（スパイクボール）及びブラジル発祥のフレスコボール等のニューススポーツを加えたイベントを実施しつつ、会場の周囲には癒しの空間として効果の高いブナ林や清流の一級河川伊南川が隣接することからイベントに併せて散策を促し都市部の方に癒しの場を提供する。</p>					
【モニターツアー】					
<p>・本町ならではの雪上スポーツ等及び旅行内容造成を図るため、モニターツアーを開催し、今年度は雪上スポーツ等を軸に神奈川県湘南地域を中心に活動するラウンドネットやスパイクボールなどビーチスポーツを行っている団体を招致し、内容調査及び各団体のSNS（LINE、FB、ツイッター、インスタグラム等）で周知を実施する。参加者自身も、ツアーの内容や感想を写真付きで自身のSNS等に投稿することを条件とする。</p> <p>ツアー終了後に参加者にアンケート調査を行い、結果を事業内容の見直しに反映する。</p>					

②自然首都只見グリーンワーケーション推進事業

実施期間：R4.5月～R5.3月

実施体制：只見町地域創生課

自然との共生をテーマとした生活と生物多様性などの学びの環境を活かしたワーケーションを個人・企業に提案し、只見町・福島県の復興・復旧をPRするとともに持続的な交流人口・関係人口の拡大に繋げ、自然環境の中での趣味とオンライン環境の整った施設において仕事をするワーケーションの場を都市部の方に提供する。

(スポット)

世界遺産級のブナ林のシャワートレッキングが体験できる恵みの森や癒しの森、戦後日本の復興を担った電源開発を支えた日本第2位の出力を誇る水力発電ダムである田子倉ダム湖でのカヌー、サップ、釣り、ボート、ウェイクボードなど、日本二百名山に数えられる浅草岳や会津朝日岳登山、亀岡スポーツパークでのビーチコートや雪上での特徴的スポーツ、高出力長距離移動可能な電動自転車のEバイクを利用したサイクリング等や古来からの自然との共生の生活スタイルが国際的に認められ、ユネスコエコパークに登録されている只見町には自然環境の研究・教育拠点であるブナセンター。

(農産物・ソウルフード)

河川の源流から流れる清流によって作られる食味が高いコメの産地となっている。ブランドトマトの南郷トマト、100%只見町産の水と米で作る地酒、昭和30年代から続く只見のソウルフードマトンなどの食を堪能しながらの、ワーケーションとホビー、グルメを組み合わせたワーケーション体験を紹介し実践していただく。

・ワーケーション誘致のための戦略を作成し合理的かつ効果的・効率的な誘致活動の計画をつくる。その後PRに必要な資料等を作成しマッチングイベントへの参加(東京都内ホテル等やオンラインでワーケーション誘致マッチングイベント3回)や大都市圏企業への広報活動(フェイスブックイベント広告・ネイティブメディア、Instagram等での周知や既に把握しているワーケーションに関心がある企業への直接アプローチ)を行う。

【今年度事業における目標】※複数年度にわたって事業を実施する場合

・只見町の亀岡スポーツパークでのスポーツ体験交流イベントや自然首都只見・只見ユネスコエコパークの自然環境や安全・安心な状況の中でのグリーンワーケーションを日本中に情報発信し原子力災害からの復興をPRするとともに観光・交流人口の拡大を図る。

アウトプット

ニューススポーツイベント開催 2回

モニターツアー及びインフルエンサー 各2回

ワーケーション マッチングイベント3回

広報活動(フェイスブックイベント広告・ネイティブメディア、Instagram等) 4回

【今年度事業の実施により得られる効果】※複数年度にわたって事業を実施する場合

・日本中の方に亀岡スポーツパークでのスポーツ体験交流イベントやワーケーションを実施し、只見町や福島県の原子力災害からの復興を日本中の方に周知することで只見町の交流人口や関係人口の増加につながる。また、インフルエンサーなどの方の情報発信により参加者や関係者への連鎖的な情報発信が実施されることで持続的・発展的に只見町・福島県の復興・復旧をPRすることが可能となる。

【次年度以降の取り組み】※複数年度にわたって事業を実施する場合

・只見町はユネスコエコパークに登録されていることから、自然との共生が大きなテーマとなっているため自然環境とワーケーションの組み合わせの有効性を強調して単年度ではなく継続的に実施していく。また、参加者からのアンケートや聞き取り調査により本事業のブラッシュアップを行い、より有効な事業・取り組みを実施する。

・ニューススポーツ体験交流では、さらに体験種目と周知を拡大させ、イベント実施方法をブラッシュアップしモニターツアーを実施することで只見町でのニューススポーツ体験の定着化を図る

・グリーンワーケーションでは、さらに大都市圏企業へのアプローチを拡大し、ニューススポーツ体験交流との連動や充実したワーク環境など受け入れ態勢を整え、より多くの企業へグリーンワーケーションを体験していただくようPRとモニターツアーを実施し只見町でのワーケーション人口の拡大を図る。

【新型コロナ感染拡大防止対策】

事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、国・実施主体する地方公共団体・(イベント開催など実施主体と開催地が属する地方公共団体が異なる場合には、開催地が属する地方公共団体)が発出する通知・ガイドラインに則った形で事業を実施する。

<具体的な対策>

・マスク着用、手洗いうがい、アルコール消毒の励行、町ぐるみでの予防接種の推進、3密の回避